



守ろう地域の宝! 民俗芸能

～備前地域編～



ももっち・うらっち
と一緒に
見ていこう!



©岡山県 ももっち・うらっち

- 【上】加茂大祭
(写真提供: 吉備中央町教育委員会)
- 【右】吉備津彦神社の御田植祭
(写真提供: 吉備津彦神社)
- 【左】福石荒神社神楽獅子舞
(写真提供: 備前市教育委員会)



はじめに

このガイドブックで取り上げる「民俗芸能」^{みんぞくげいのう}は、地域で生活する中で、風俗や習慣、信仰（神や仏を信じること）をもとにして伝えられてきた祭りや行事などをさします。獅子舞や神楽^{ししまい}、かぐら^{かぐら}、おど^{おど}踊りなどは、それぞれの地域の人々によって守り伝えられてきたもので、心のよりどころであり、その地域ならではの宝物といえるでしょう。

このガイドブックでは、岡山県の備前地域（現在の岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町）にある、国や県が重要無形民俗文化財に指定した民俗芸能を紹介します。読んでみて、実際にその場所を訪れたり、皆さんの身近で行われているお祭りなどに参加していただけたらと思います。また、ここで取り上げた民俗芸能以外でも、地域の歴史や文化を物語るものがあります。皆さん自身のおすすめの無形民俗文化財を見つけたり、参加してみたいかがでしょうか。



用語 解説

民俗文化財

…文化財を守る法律（文化財保護法）によると衣食住や仕事、信仰やお祭りなどの年中行事などに関係する風俗習慣、民俗芸能や技術、そしてそれに使う衣服や道具、家などで、私たちの生活の移り変わりを理解するためにも欠くことのできないものと説明されています。

特に重要として指定されたものを重要有形（無形）民俗文化財、岡山県が指定したものを岡山県指定重要有形（無形）民俗文化財と呼びます。

みやうちおどり

宮内踊

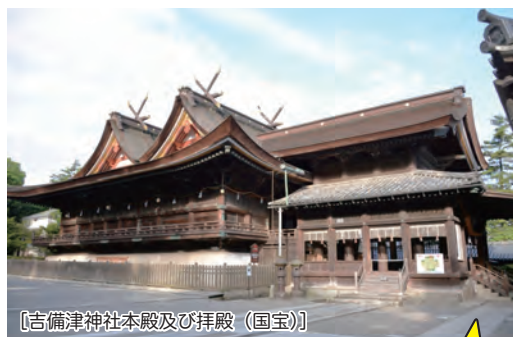
(岡山市北区吉備津)



写真提供: 岡山市教育委員会

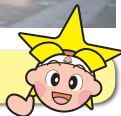
吉備津神社の門前町として栄えた宮内(岡山市北区吉備津)で、毎年7月31日の夜に行われる盆踊りです。言い伝えによると、江戸時代中期(今から約250年前)にこの地へ芝居にきた上方(今の関西地方)の歌舞伎役者の三桝大五郎が振り付けをして、地元の芸者たちに踊らせたのが始まりと言われています。

簡単な動作をゆっくりと踊ることに特徴があり、優美な中に厳格さを感じさせる踊りとなっています。



〔吉備津神社本殿及び拜殿(国宝)〕

開催日: 7月31日



さい だい じ え よう
西大寺の会陽 (岡山市東区西大寺中)



写真提供: 岡山市教育委員会

毎年2月の第3土曜日の夜中に、西大寺観音院の本堂の天井近くにある御福窓から、宝木が投下されます。その宝木を奪い合う伝統行事で、正月に行われる修正会の完了の行事として行われます。

寺に伝わる歴史によると、会陽の起源は、室町時代後期（今から約500年前）に祈願された護符を奪い合ったことにはじまるとされています。別名「はだか祭り」と呼ばれています。

西大寺の会陽が終わると、岡山平野に春が訪れると言われています。

**用語
解説**

修正会…前の年の悪かったことを反省し、新しい年が豊かになったり、国が安泰であることを祈る会。

護符……将来生じるかもしれない災厄を予防するために、呪力を帯びたものとして身に付けられるお守りの札。



西大寺会陽の浮世絵 (岡山県立博物館蔵)



[西大寺観音院本堂 (岡山市指定重要文化財)]

周辺図



開催日：2月第3土曜日

き び つ ひ こ じ ん じ ゃ お た う え さ い 吉備津彦神社の御田植祭

(岡山市北区一宮)

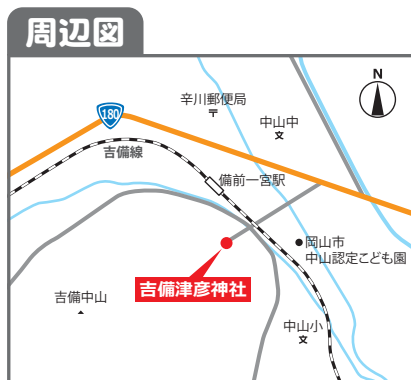


写真提供：吉備津彦神社

毎年8月2・3日に行われる五穀豊穰を願う行事で、二つの神事（御斗代神事・御幡神事）が行われます。2日午後、早乙女による田舞が奉納され、夜10時から御田植祭の御斗代神事が行われます。3日午前、早乙女による田舞が奉納された後、氏子が高さ5メートルあまりの竹樵に、「御幡」十数本をかかぎて長い行列を組んで拝殿に入って行きます。その後、「御幡」につけられている扇の争奪が行われますが、それを田に置けば豊作になると信じられています。これは、病虫害除けと悪疫退散を祈願する信仰のあらわれと考えられます。



写真提供：吉備津彦神社



開催日：8月2日、3日



写真提供：たけべ新聞

毎年10月第2日曜日（元は旧暦9月15日）に行われる建部地区の秋祭りに、七社八幡宮と旧建部郷内の八社の神輿が七社八幡宮に集まる祭りです。それぞれの神輿はひとしきり勇壮な練りをくり返した後、宮司が神前に御幣をたてまつることを合図にして、高々と差し上げられ、その高さを競います。また、祭りでは、勇壮な獅子舞神楽や棒使いも奉納されています。



写真提供：たけべ新聞

用語解説

御幣

お祓いに使う紙・麻などを切って垂らしたもの。



周辺図



開催日：10月第2日曜日



し ろ じ ん じ ゃ ご ぐ う
志呂神社御供 (岡山市北区建部町下神目) しもこうめ



写真提供：久米南町

志呂神社の秋祭りに、久米南町京尾地区の氏子から供えられる神饌行事（神様に食事を差し上げ、お下がりを参列した人がいただく）で「京尾御供」とも呼ばれます。米の粉で作る男女の陰陽を模した「フト」「マガリ」と、貨幣をかたどった餅で作る「丁銀」の三種の神饌を奉納します。御供の製法と形態は今も厳重に守られ、京尾地区から唐櫃（木でつくられた四つ足のついた箱）に入れて運ばれています。同時に神輿の御神幸や棒遣い、神楽が祭りを盛り上げます。



【志呂神社本殿】

開催日：10月20日



ふくいし こうじんじゃ かぐらし しし まい
福石荒神社神楽獅子舞

(備前市三石)



写真提供：備前市教育委員会

福石荒神社の秋祭りに福石神楽団によって奉納される獅子舞。お祭りの前日の夜（宵宮）には、まず当屋（福石公民館）の門前で「出立ちの舞」を舞い、ついで行列を整え囃子に合わせて伊勢音頭を歌いながら神社へ練り込みます。境内の広場で16種の曲目を舞い、唐子・猿・お多福が獅子をあしらいます。翌日には早朝から福石内の氏子全戸を回る「村まわし」が行われます。この獅子舞は播州有年（今の赤穂市有年）から伝えられたといわれ、「出立ち」から「村まわり」に至るまでの古式をよく伝えている備前を代表する獅子舞です。



開催日：10月第2土・日曜日



こうぼう じねりくよう

弘法寺練供養(瀬戸内市牛窓町千手)

県指定
重尋無形民俗
文化財



写真提供：瀬戸内市教育委員会

5月5日、六菩薩ろくぼさつが中将姫ちゅうじょうひめを極楽浄土ごくらくじょうどへ導くみちび様子を再現する行事です。弘法寺遍明院で、「迎え仏」と呼ばれる中が空洞あみだによらいぞうの阿弥陀如来像に信徒が入り、中将姫の行列を迎えます。このように、仏像自体を持ち出す練供養が行われることは珍しく、他にはあまり例がありません。

用語解説

中将姫

…大和当麻寺えんぎの縁起きんぎに現れる伝説上の女性。父の左遷させんを悲しみ、大和当麻寺に入って尼となり、浄土に招かれて成仏じょうぶつしたとされています。



開催日：5月5日

周辺図



たちおどり ごりょうしゃ
太刀踊(御霊社) (瀬戸内市牛窓町牛窓)



写真提供：瀬戸内市教育委員会

うしまどあやうら ちく
牛窓綾浦地区にある御霊社の秋祭り（10月第4日曜日）に奉納される踊り。5人の男児で組織され、2人が男装、2人が女装、1人が太鼓打ちとなり、囃子とかけ声に合わせて太刀・薙刀なぎなたなどを持ってカンコ（小太鼓）と囃子はやしに合わせて踊ります。

また、踊りの前には「ならし」と呼ばれる楽器を使った囃子が行われます。



開催日：10月第4日曜日【牛窓秋祭り】

から こ おどり

唐子踊

(瀬戸内市牛窓町牛窓)

県指定
重要無形民俗
文化財



写真提供：瀬戸内市教育委員会

うしまどこんのうら ち く すさのお じんじや やく
牛窓紺浦地区にある素盞鳴神社（疫神社）の秋祭り（10月第4日曜日）に奉納される踊り。異国風の衣装をまとった男児2人が若者の肩に乗って神社を参拝し、境内で小太鼓、横笛、歌にあわせて踊りを舞います。囃子の歌詞は意味がよく分からない部分もありますが、衣装、踊りは独特のものであり、江戸時代に牛窓港に寄港した朝鮮通信使との関係も指摘されています。

用語解説

朝鮮通信使

…主に江戸時代を通して、朝鮮から日本へやってきた外交使節団。



開催日：10月第4日曜日【牛窓秋祭り】

周辺図



た ち おど り あ わ り ご う て ん じ ん じ ゃ
太刀踊(粟利郷天神社)

(瀬戸内市牛窓町長浜)



写真提供：瀬戸内市教育委員会

長浜粟利郷地区にある粟利郷天神社の秋祭りに奉納される踊り。御霊社の太刀踊とは対照的にこちらは12～13歳の主に女兒により踊られます。男役・女役がそれぞれ太刀なぎ・薙刀なを持ち、箱ふたの蓋を叩く拍子木のリズムに合わせて軽妙に踊ります。その所作には古風な伝統と軽妙な舞踊の美しさが見られます。



開催日：10月【第2日曜日 大土井正八幡宮】
【第3日曜日 粟利郷天神社】



よし かわ はち まん ぐう とう ばん さい
吉川八幡宮当番祭

(加賀郡吉備中央町吉川)



写真提供：吉備中央町教育委員会

毎年10月1日から約1か月にわたり行われる祭礼行事。吉川八幡宮を中心に南北に分けた地区から祭礼の主役となる10歳前後の「当番（生き様）^{とうばん}」が選ばれ、祭りが終わるまで神人としての生活を送ります。

古式にのっとり各種の神事が行われ、大祭日には、馬に乗った当番を中心とした行列が神社まで進みます。御神幸の後、当番の走り競べが行われ、祭りはクライマックスを迎えます。

開催日：10月第3土・日曜日、
10月第4土・日曜日(大祭)、
10月第5月曜日
(10月1日の神事は非公開)



[吉川八幡宮本殿(重要文化財)・拝殿(岡山県指定重要文化財)]

周辺図



かわい じん じゃ なつまつり
川合神社夏祭のだし

(加賀郡吉備中央町湯山)



写真提供：吉備中央町教育委員会

毎年8月第4日曜日に、川合神社で行われる夏祭りの行事。疫病退散・五穀豊穰を祈るため、各地区の氏子たちが境内にそれぞれ小屋をつくり、その中に等身大の人形を「たな」と呼ぶ仮舞台に飾って奉納します。人形は和紙・竹・藁などを使い、芝居・物語・神話などの一場面から取り集めた歌舞伎風のものが多く、その技や出来栄を競います。

えきびょうたいさん ごくほうじょう

周辺図



開催日：8月第4日曜日



か も たい さい
加茂大祭

(加賀郡吉備中央町加茂市場)

県指定
重葺無形民俗
文化財



写真提供：吉備中央町教育委員会

毎年10月第3日曜日に、加茂^{かも}総社宮^{そうじゃくう}で行われる祭りです。近くにある8つの神社から神輿が集まる「寄宮祭」という珍しい形式で行われています。神輿が境内に集まり、太刀振りや獅子舞、棒使いなどの競演が行われ、「御神幸」では8社の神輿が一斉に高くさしあげ競い合い、クライマックスを迎えます。県下三大祭りの一つ。



写真提供：吉備中央町教育委員会

開催日：10月第3日曜日



だんじり（壇尻）は、お祭りのときに担がれたり、人によって引つ張られたりする屋台のことで、山車（だし）とも呼ばれます。

県内各地には、多くのだんじりが残っていて、現在もお祭りに使われています。そのうち、津山市や玉野市、瀬戸内市のだんじりが岡山県指定重要有形民俗文化財に指定されています。

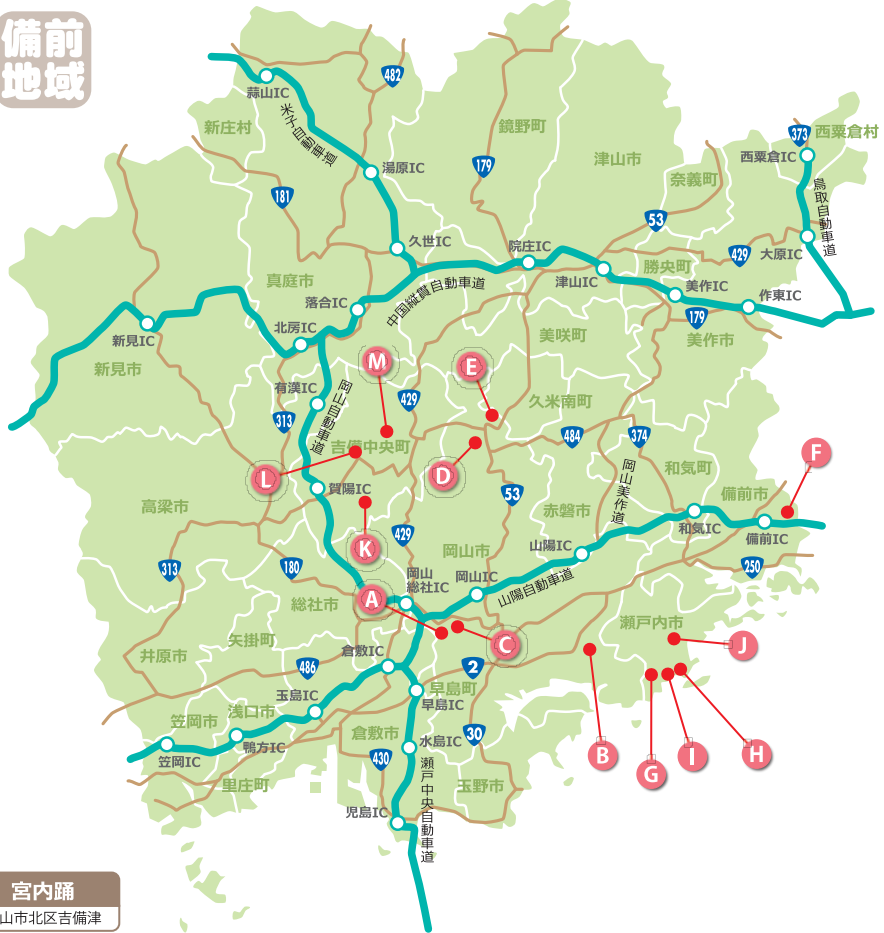
	名 称（指定数）	所 在 地
1	津山だんじり（28基）	津山市小田中・伏見町他
2	八浜のだんじり（2基）	玉野市八浜町八浜
3	牛窓だんじり（8基）	瀬戸内市牛窓町牛窓



【左上】津山だんじり
（写真提供：津山市教育委員会）
【右】八浜のだんじり
（写真提供：玉野市教育委員会）
【下】牛窓だんじり

所在マップ

備前地域



A 宮内踊
岡山市北区吉備津

B 西大寺の会陽
岡山市東区西大寺中

C 吉備津彦神社の御田植祭
岡山市北区一宮

D 建部祭り
岡山市北区建部町建部上

E 志呂神社御供
岡山市北区建部町下神目

F 福石荒神社神楽獅子舞
備前市三石

G 弘法寺練供養
瀬戸内市牛窓町千手

H 太刀踊(御霊社)
瀬戸内市牛窓町牛窓

I 唐子踊
瀬戸内市牛窓町牛窓

J 太刀踊(粟利郷天神社)
瀬戸内市牛窓町長浜

K 吉川八幡宮当番祭
加賀郡吉備中央町吉川

L 川合神社夏祭のだし
加賀郡吉備中央町湯山

M 加茂大祭
加賀郡吉備中央町加茂市場

発行日 令和2年3月30日

発行 岡山県教育委員会

編集 岡山県教育庁文化財課

〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下二丁目4番6号 電話086-226-7601

協力 岡山市教育委員会、津山市教育委員会、玉野市教育委員会、備前市教育委員会、瀬戸内市教育委員会、吉備中央町教育委員会、吉備津彦神社、たけべ新聞